

I. 2015 年度春季研究発表会特別企画について

1. IAMCR(International Association for Media and Communication Research)会長を招聘し、講演会 (Keynote Speech) 及びワークショップを開催するにあたって

日本マス・コミュニケーション学会会長
谷藤 悦史

知の探究は、開かれた場で行わなければなりません。知の深化と発展は、そうした環境があって可能になるからです。研究のグローバル化が言われて久しいですが、当然のことであると思います。開かれた環境の中での知的交流と切磋琢磨の中でこそ、真理は花開くからです。

日本マス・コミュニケーション学会は、これまでも海外の学会や研究者と交流を重ねてきましたが、その流れは決して太いものではありませんでした。交流に熱心な会員の個人的交流は継続的になされていましたが、組織的交流は、30周年や50周年などの記念事業などに限られていたと言えるでしょう。世界の研究の流れを日本に取り込み、日本の優れた研究を世界の流れの中に位置づけるためにも、海外のさまざまな研究組織との組織的で継続的な研究交流は不可欠であると考えます。本年のデジタル版の英文ジャーナルの刊行も、そうした試みの一つです。それ以外にも、学界は、さまざまな機会をとらえて会員諸氏の研究交流を活発にするための場を保障して行きたいと考えております。

マス・コミュニケーション研究の主要な国際組織である IAMCR の会長である J.ワスコさんを招集した理由も、そこにあります。IAMCR が、いまどのような状況にあるのか、何を模索しているのか、さらにアジアや日本のマス・コミュニケーション研究に何を期待しているのかについて伺い、会員諸氏が海外交流を行うための端緒にしたいと考えます。